

2 段階選抜の種類について

2 段階選抜には以下の 3 つの種類があります。

A：予告倍率のみを採用

【例】東京大学・文一（前） ⇒ 募集人員の約3.0倍
（*多くの大学はA方式を用いています。）

B：予告得点（率）のみを採用

【例】京都大学・理・理（前） ⇒ 900点満点中約7割以上

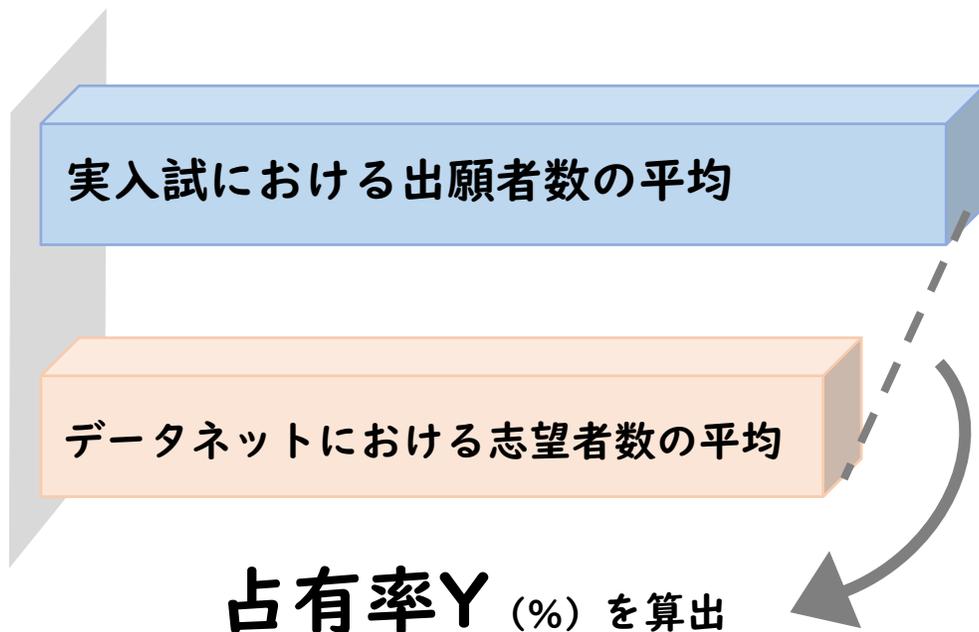
C：予告倍率と予告得点（率）の併用

【例】大阪大学・医・医（前） ⇒ 900点満点中630点以上、募集人員の約3.0倍

2段階選抜（A）の判定方法①

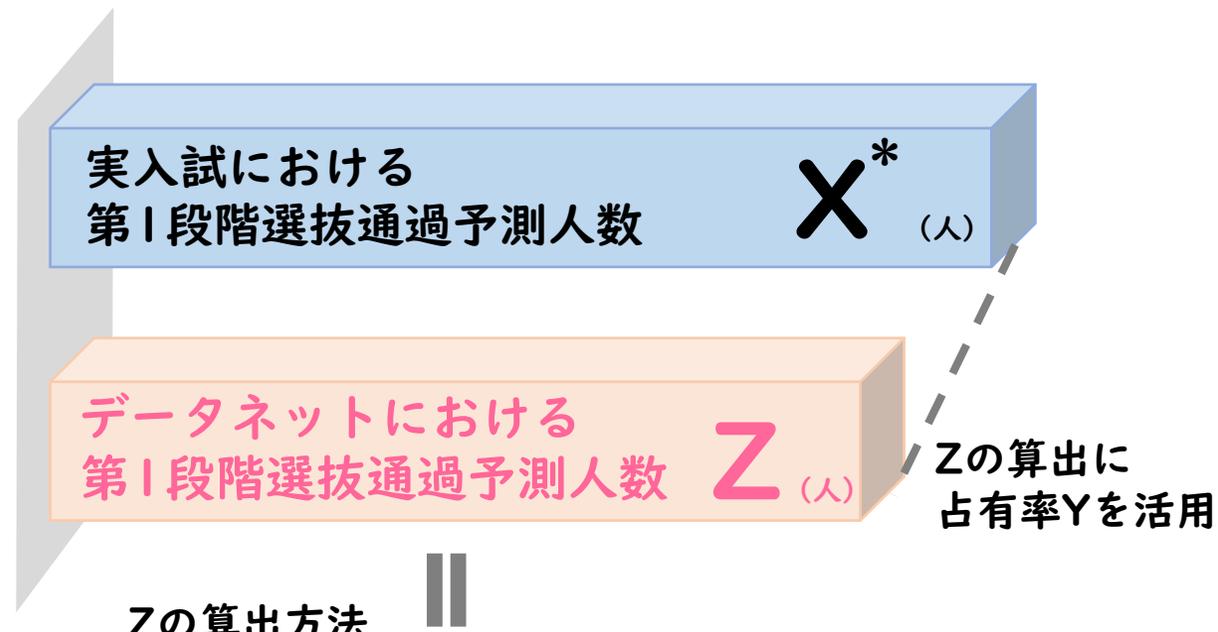
A方式における第1段階通過予測人数（Z）の算出方法について

【過去5カ年のデータ】



「過去5カ年の実入試における出願者の平均人数」に対する
 「過去5カ年のデータネットにおける志望者の平均人数」の割合
 補足）占有率が100%を超える場合は、100%とします。

【今年度】



$$Z_{(人)} = X_{(人)} \times Y_{(%)}$$

* Xの算出方法は「 $X_{(人)} = \text{“募集人員”} \times \text{“予告倍率”}$ 」です。
 しかし、志願倍率が予告倍率を超えても2段階選抜が実施されない
 ケースもあり、その場合は当該大学の過去の第1段階選抜通過人数のうち
 最小のものをXとします。

2段階選抜（A）の判定方法②

A方式における第1段階選抜通過ライン（得点）の算出方法について

- 求めたZ（人）をデータネット志望者累積席次に当てはめ、席次から該当得点を求める。
- ▼
- 求められた得点がDライン（合格可能性20%）より低いかをチェックする。
- ▼
- Dラインよりも低ければ*、求められた得点を**第1段階選抜通過ライン**とする。

イメージ

*Z=300人の場合

今年度の データネットの 累積席次（人）	得点	
≈		≈
285~290	640	←Dライン
290~298	635	
298~305	631	631点が第1段階 選抜通過ラインとなる
305~310	628	
≈		≈

*補足) 仮にDラインが第1段階選抜通過ラインよりも低ければ、Dラインが合格可能性を示すという事実と矛盾します。そのため、必ず第1段階選抜通過ラインがDラインよりも低く設定されていることを確認しております。

予告倍率と予告得点（率）を併用した2段階選抜（C）における第1段階通過ラインの算出方法について

- ・ A方式で求められた得点と予告得点（率）を比較する。



- ・ 高い方の得点を第1段階選抜通過ラインとする。

補足) B方式の2段階選抜については、すでに第1段階選抜通過ラインが決まっているため、説明は割愛させていただきます。